

GREEN Rotary-Club

Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international

The Weekly Bulletin

2020~
2021年度
テーマ

国際ロータリー 「ロータリーは機会の扉を開く」 R.I.会長 ホルガー・クナーク

地区方針 「ロータリーは無数の可能性：情熱で夢を未来に届けよう」

R.I.2720地区 ガバナー 硯川昭一

熊本グリーンRC 「ロータリーの夢に向かって情熱を持って挑戦しよう！」

熊本グリーンRC会長 荒木一之



ロータリーは機会の扉を開く

■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：荒木一之 ■幹事：河野景治 ■会報担当：田中慎二
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

令和2年10月19日

第1391回

2020-2021年度 第12回

【例会】

1. 閉会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

★新型コロナウイルス感染防止の為、ロータリーソングは音楽のみを流します。

・「奉仕の理想」(ロータリーソング)

来訪者紹介 (荒木一之 会長)

卓話者

行政書士オフィスノーサイド

湯上裕盛氏

会長スピーチ (荒木一之 会長)

10月24日は世界ポリオデーです。このポリオデーに世界各地のロータリアンがクラブや地域社会と一体となりポリオ根絶のための活動をしています。

当クラブもポリオの映画を上映したのが記憶に新しいです。

2019年度は世界136カ国で4,000を超えるクラブが5,900件以上のイベントを立ち上げ、ポリオ根絶の啓蒙、募金に貢献。アートやスポーツ、ダンスフェスティバル、認識向上など、多種多様なイベントが実施されています。

例えばモーリシャスのロータリークラブは、ポリオ撲滅活動を取り上げたドキュメンタリー映像の試写会を開き、スイスのロータリークラブは、世界的に有名な指揮者とオーケストラを招いて、チャリティーコンサートを催し、30万ドルの寄付を集めました。ケニアとフランスのロータリークラブは、ポリオ撲滅のための募金と認識向上を目的とするウォーキングイベントと自転車レースを実施しています。

しかし、今年度はコロナの影響もあり、ポリオの活動の影が薄くなりました。

私もロータリーに入り、ポリオの活動を知り、そこでポリオは以前日本では小児麻痺と呼ばれており、1960年代には日本でも6500人ものポリオ患者がいたと知りました。日本でも、1961年に生ワクチンを緊急輸入して接種が始まり、翌年には100人以下になり、野生種のポリオは根絶されています。

しかし、現在でも年に1人は発症しています。何故かと言いますと、ポリオには野生種と伝播型があり、野生種

グリーンロータリー・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及びません。

というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

卓話予定

- 10/26 米山奨学生卓話 アフメド・エムディ シャミム 君 (バングラデシュ)
- 11/2 「事業承継について」(仮題) (株)南星 社長 宮部康弘氏
- 11/9 「ふるさと納税について」(仮題) 「未来創造(株)」社長 松永浩司氏
- 11/16 ★熊本北ロータリークラブとの合同例会

【熊本グリーンRC ホームページアドレス】 <http://www.kg-rc.com/>

は根絶してしまいましたが、伝播型、すなわち生ワクチンを接種された人からポリオワクチンを接種していない人にウイルスが移ってしまう事例が起きています。海外ではそうならないようにポリオワクチンを不活性化して接種していました。不活性化、すなわちワクチンの製造過程で、毒性を排除し、免疫の部分だけ取り出す方法です。そうすれば、ポリオの発症は出る事はありません。

他に不活性化ワクチンは日本脳炎や百日咳などがあります。2002年にアメリカでは承認されましたが、日本では2012年に、ようやくポリオの不活性化ワクチンが導入されました。

何故導入が遅れたかという、生ワクチンに比べ、製造コストが高く、厚生省の認可が遅かったのが原因と思われます。ロータリーのナイジェリア・ポリオプラス医院長であるツンジ・フンショ氏が「TIME誌」の「世界で最も影響力がある100人」に選ばれました。ナイジェリアロータリークラブに所属するフンショ氏はパストガバナーであり、インター ナショナルポリオプラスのメンバーです。ロータリーやパートナー団体とともにアフリカでのポリオ根絶に挑み 2019年にアフリカでの野生型ポリオ根絶が宣言されました。1996年にはアフリカには75,000人のポリオ患者がいたとあります。そこから素晴らしいスピードでポリオ根絶ができたことになり、そこには200万人のボランティア、ロータリーよりの8種9000万ドルの寄付によりできたとあります。世界人口の90%をしめるWHOの6地域中5地域で野生型ポリオウイルスが根絶されたことになります。他の地域で野生種が根絶できていないのはパキスタンとアフガニスタンになるようです。RI会長のクナーク氏もこう述べています。「今回の快挙はポリオのない世界にむけた大きな1歩です。しかし戦いはまだ終わっていません。世界のポリオ根絶を実現するためのロータリー会員と寄付者からの支援、そして医療従事者による懸命な努力が必要とされます。」とおっしゃっています。

幹事報告 (田中 慎二 副幹事)

【例会変更・取り止め】

<例会取り止め>

下記の例会は、定款第7条第1節に基づき取り止めます。サインメーカーは行いません。

[熊本'05福祉RC] 11月24日(火)

出席報告

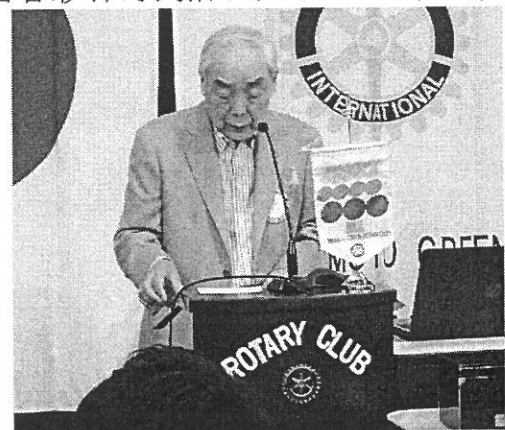
(西村和真文クラブ管理運営委員(出席担当長))

	会 員 総 数	21名	出 席 率
10月19日	出席免除会員数	1名	75.00%
	計算上会員数	20名	
	出席会員数	15名	
9月28日	前回の出席会員数	名	MU期間が例会前後28日に変更となった為10/26まで修正出席率は発表なし
	メイクアップ数	名	
	修正出席会員数	名	

委員会報告

ロータリーの友10月号の内容紹介

報告者:伊津野良治 公共イメージ副委員長



スマイル

(クラブ管理運営委員長 田中 純司 委員))

●荒木 一之 君、田中 慎二 君 「本日のゲスト卓話者の湯上様の来訪を心より歓迎致します。卓話テーマの「日本一真っ直ぐな行政書士」楽しみです。又、会員の皆

様、めっきり寒くなりましたね。くれぐれもお体ご自愛下さい。」

●伊津野良治 君 「コロナならぬヘルペスなどでまた、長期お休みしました。再々々々復活中です。」

●松村 秀逸 君

「新型コロナが一日も早く、終息しますように祈念しスマイルします。」

●河島 一夫 君 「再び、ヨーロッパではコロナが流行っています。日本でも寒くなってくれば患者が多く出なければと思うばかりです。飲食店、商売している人達には一段と死活問題です。」

●栗山 義則 君、大友 利行 君、江上 泰弘 君、田中 純司 君 「本日の卓話者、湯上様よろしくお願ひします。歓迎のスマイルです。」

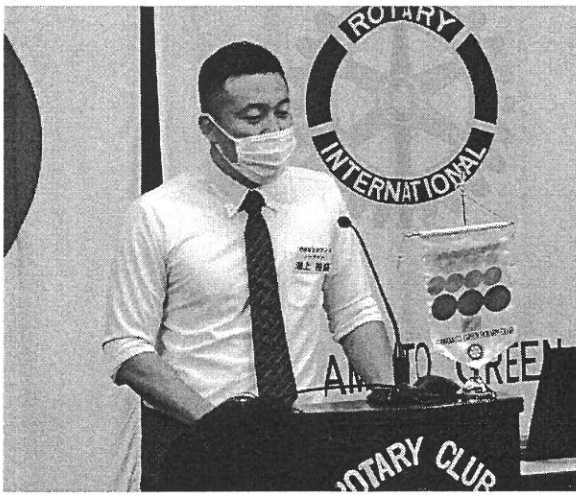
3. 例会プログラム

紹介：田中慎二 会員)

卓話者：

行政書士オフィスノーサイド 湯上裕盛 氏

演 題：「日本一真っ直ぐに走る行政書士」

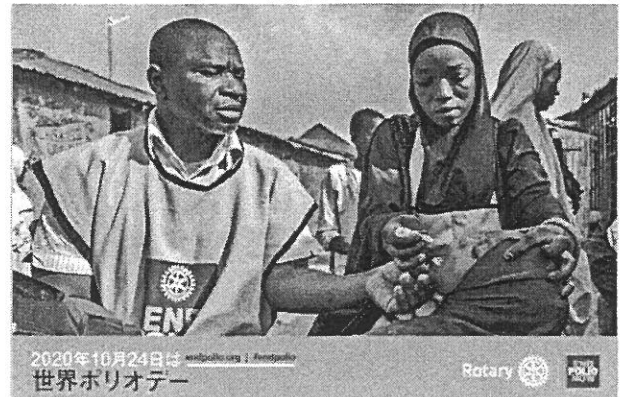


4. 閉会・点鐘

[ロータリー財団]

10月24日は
世界ポリオデーでした

ポリオとの闘いの勝利は 世界保健の勝利



私たちは、パートナー団体や皆さまをはじめとする支援者の方々のおかげで、この30年間で世界におけるポリオ発症数を99.9%減少させることができました。ポリオ根絶を目指すロータリーの取り組みは大きく前進してきましたが、まだ完結していません。ポリオを根絶しなければ、10年以内に毎年20万人が新たにポリオに苦しむことになる可能性があります。それを阻止するためにも、今年の世界ポリオデーに皆さまのお力をお貸しください。すべてのご寄付は、ポリオ根絶に向けて一步一步、前進していくためための力となります。

ポリオプラスにご寄付いただくことで、ロータリーとパートナー団体はすべての子どもたちをポリオワクチンで守ることができます。また、ビル&メリンダ・ゲイツ財団による上乘せのおかげで、ご寄付は3倍になり、ポリオのない世界にさらに近づくことができます。

子どもたちがポリオで苦しむことのないよう、世界ポリオデーに共に行動しましょう。

4. ミャンマーの子どもたちに手洗い習慣を

ミャンマーでは9月以降、国内の新型コロナウイルス感染者が急増しています。同国政府はヤンゴン管区全域のセミロックダウン、流行地域からの移動制限など、感染拡大に歯止めをかけるべく対策を強化しています。

今年度、新型コロナウイルスへの対策プロジェクトを立ち上げているミャンマー米山学友会では、子どもたちに手洗い習慣を身に付けてほしいと、今年7月から8月にかけて僧院学校6



校（ヤンゴンおよびマンダレー地区で各3校）に手洗い場計45台を設置。僧院学



校とは、地元民のお布施によって運営され、孤児や貧困層の子どもたちが多く学ぶ学校です。僧侶や校長からは、「コロナの影響で学校を支えてくれる支援者が減っているなか、今必要不可欠な手洗い場を寄贈し



ていただいた」と、感謝の言葉をいただいたそうです。このほか、会員が持ち寄ったお金で、ヤンゴンとマンダレーの各医療施設へ計380万チャット（約31万円）を寄付しました。ケイカイン ウィントウラ会長は「学友会の会員や有志の寄付者からのお金を、本当に必要な場所へ届けるのが会長のつとめだと思っています」と、笑顔で語ります。

5. 地区米山委員長対象 Web 相談会を開催

当会では年に2回、次年度の地区米山記念奨学委員長を対象とするセミナーを開催し、事務手続きや年間スケジュールを確認しながら、ケーススタディと推進のアイデアを共有する場を設けています。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月25・28・29日の3日間にわたってZoomを使ったオンラインでの相談会を開催。コロナのために日本へ入国できない奨学生への対応や、地区への特別補助費、8月から当会で施行された「個人情報の保護及び管理に関する

規程」、よねやま親善大使やホームカミング制度などについて事務局から説明したあと、質疑応答や参加している他地区との情報交換が行われました。

いずれの地区も、奨学生を含む懇親会・研修会の開催やその対策、年末年始からスタートする次年度奨学生の面接選考の方法などについて、頭を悩ませている様子が伺えました。当会事務局では今後3日間の質疑応答のまとめを作成して配布し、役立てていただく予定です。